

日系ユース分科会

日系ユース分科会議長 松田 デレク

概要

* 12カ国から約50名の参加者

* 4つの課題

①グローバル人材としての日系人

②日本における日系人の雇用

③在日日系人子弟の教育

④在日日系第二世代の挑戦

- * テーマに沿った4つの大きなグループをつくり、
更に言語ごとに2つに分割
- * 問題の提起➡同じテーマのグループ同士で問題を交換
- * 問題への解決案を提案



グローバル人材としての日系人

* 日本企業のグローバル化に疑問

➡ 忍耐力が必要。時間をかけて自らも日本の文化に触れ、新しい発想を提案。

* 日系人（外国人）だから差別されてしまう。いかにして信頼を得られるか。

➡ 日本人は周りとは異なるものを避ける傾向がある。ある程度の我慢と妥協が必要。様々な経験を共有することによって信頼が築かれる。日本人側も理解を深める必要がある。



日本における日系人の雇用

*会社内では立場が弱いことに問題
➡労働規定等の情報の多言語化や周りのサポート。長期で雇うのであれば、日本語支援はその企業が責任を持つ（長期労働者と短期労働者）。

*アイデンティティの問題
➡今後の課題でもあるが、自分というものをしっかり持つ必要がある。常に自分自身の立場や考え方を持つことが大切である。日系人の多い地域では学校内あるいは学校外において母語を学ぶ機会をつくる。



在日日系人子弟の教育

* 公立学校での外国人子弟の受入れ体制が不完全。

➡ 少ないが両方の理解を得られる日本人（日系人）の方々の協力で、外国人をもっとコミュニティへの参加を促す。全体の意識改革が必要である。そうすれば、外国人にとって日本社会に入りやすい環境が作れる。外国人だけでなく、日本人にとっても学校内あるいは地域内において生じるトラブル回避につながる。

外国人の両親の教育に対する意識改革も必要である。



在日日系第二世代の挑戦

* 日系人が日系コミュニティを知らずに生活していることに問題を感じる。

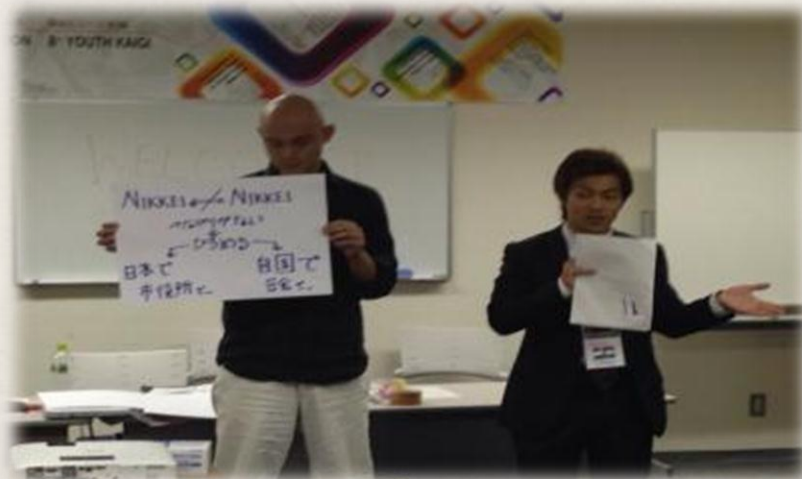
➡ 知らないから日系コミュニティで活躍できない。(在外日本・在日外国) 大使館、国内の市役所に日系コミュニティ関係の情報の記載されているパンフレットを置く。あるいは、自国の日系人協会で日本国内の日系コミュニティの情報を提供する。

* 情報が都会に集中してしまう。

➡ 留学生、研修生の活用。様々な地域で勉強をしているため、それぞれの活動地域において日系コミュニティを広める可能性がある。

* 差別等に対する解決策

➡ 「祭」を開催して、多文化交流を深める。祭の好きな人が多い日本では、多文化な祭りがあると情報発信に利用できるし、共通の経験ができる。



ユース全体のまとめ

- * 多文化社会でうまくやっていくには双方の理解が不可欠。
- * 日本国内では異質なものは避けられる傾向にあるため、歩み寄ることが必要である。
- * しかし、自分自身のアイデンティティを失うことのない環境づくりが大切である。
- * 日本国内外の日系人ネットワークの強化が必要。